



▲太鼓門部分拡大図

郷土資料の散歩道

☎ 21 | 6 1 1 1 内線 6 2 0 1

図書館

郷土資料室からの

おしらせ

旧米沢城鳥瞰図

元奥女中が描いた
米沢城の鳥瞰図

写真は図書館郷土資料の中の「旧米沢城鳥瞰図」です。昭和十八年、図書館が貴重な資料として模写したもので、原本は明治二十一年に西卯吉の母が描いたものです。西家は江戸時代には組外御扶持方に属した中級家臣で、卯吉の母は幕末に奥女中を勤めていました。

明治五年、米沢城東北隅にあった三層の隅櫓(御三階)は取り壊され、同九年には本丸御殿跡に謙信・鷹山二柱を祭る上杉神社が建てられました。しかし公園の整備は進まず、本丸跡が荒れ果てる状況を悲しみ、往時の米沢城の姿を残そうと、記憶をたどり描いたものと思われまます。

絵図は縦一三九cm、横一四八cmと大きく、鮮やかに彩色され、鳥瞰図的に描かれています。

鳥瞰図とは、高い所から斜めに見下ろしたように描いた風景図のことです。この絵図はまさに米沢城の東側から本丸・二の丸を見下ろし、立体的に描いた珍しいものです。また、城内で働く人達が描かれていることも大変珍しく、貴重な資料となっています。

本丸の様子

本丸の東門は太鼓門と呼ばれ、太鼓を打っている人の姿が描かれています。豊臣秀吉から贈られたと言われる太鼓で、時刻や登城の合図を鳴らした(写真上)。

藩主夫人や子供が住む大奥は、奥女中を勤めていた経験からか、「徳之助様部屋」「熊松様部屋」等、子供達の部屋名まで細かに記載されています。

二の丸に勤める人々

二の丸の南東には謙信遺骸を祀る御堂(本丸南東隅)に仕える真言宗寺院、南西には御城代岩井備中の屋敷、西側には御借物・青葙等の蔵や役場と、役場で働く家臣が描かれています。

二の丸北には馬場と作事屋があり、馬の食べ物を調理する人や、大工仕事に従事する人々等、具体的に描かれています。

米沢城を描いた絵図は、上杉博物館常設展示室で紹介している享和二年(一八〇二)の松岬城堞図が有名です。この鳥瞰図と合わせて見ると、より往時の米沢城の景観や生活を思い浮かべることができます。



▲米沢城本丸・二の丸部分拡大

郷土資料の小径

図書館ホームページに、調査相談の多い事項や、問い合わせの回答で興味を引く内容等を紹介するコーナー「郷土資料室の窓」を開設しました。

第1回目は「なせばなる」の和歌を紹介しています。どうぞご覧ください。なお、図書館カウンターにも同じ内容のシート(A3 1枚)を用意しています。

●市立米沢図書館ホームページ
<http://www.library.yonezawa.yamagata.jp>